

オペレーターズマニュアル



16ch 手・手首用送受信コイル
GE 1.5T/3.0T MRI システム用



モデル番号：

GE	QED
5768098-2 (1.5T) / 5561531-2 (3.0T)	Q7000180 (1.5T) / Q7000152 (3.0T)

保証と責任

納品後の製品の保守や管理の責任は、本品を購入されたお客様にあります。以下の場合、保証期間内にあっても保証の対象にはなりません。

- 誤用または不正使用による損害または損失。
- 火災、地震、洪水、稲光などの不可抗力により生じた損害または損失。
- 電源供給不足、不適切な設置、容認できない環境条件など、本装置の規定条件を満たさないことにより生じた損害または損失。
- 製品の改変や修正により生じた損害。

以下についてはいかなる場合も、QED は一切の責任を負わないものとします。

- QED による明示的認定を受けていない技術者が実施した移設、修正、修理により生じた損害・損失、問題。
- 本取扱説明書に記載される注意事項や操作説明に従わないまたは無視した結果生じた損害または損失。

輸送および保管条件

注：本装置は、以下の条件で輸送および保管するものとします：

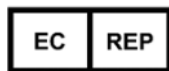
1. 室内温度 $-40^{\circ}\text{C} \sim +70^{\circ}\text{C}$
2. 相対湿度 10%~100%
3. 大気圧 50 kPa~106 kPa

医療機器指令

本製品に CE 基準適合マークが貼付されている場合、医療機器に関する閣僚理事指令 93/42/EEC に準拠していることを示しています。



欧州代理人：



Medical Device Safety Service GmbH (MDSS)
Schiffgraben 41
30175 Hannover
ドイツ

米国連邦法

注意：連邦法により、本機器の販売、流通、使用は、医師による場合か、医師の指示に基づく場合のみに制限されています。アメリカ合衆国連邦法により、本機器の適応外使用は、研究目的の場合のみに制限されています。

発行日：2018 年1 月

はじめに

本マニュアルでは、1.5T 16ch 手・手首用送受信コイル (5768098-2) および 3.0T 16ch 手・手首用送受信コイル (5561531-2) を安全にお使い頂くための予防策、使用方法およびお手入れについて詳しく説明します。本品を安全かつ正しく使用されるために、製品を操作する前に、本マニュアルに併せて MRI システムの取扱説明書をお読みください。本マニュアルには、QED が提供していない装置の説明や安全性情報は含まれていません。QED 以外の装置については、その装置の製造元にお問い合わせください。

互換性

1.5T 16ch 手・手首用送受信コイルは GE 1.5T MRI システムに、また 3T 16ch 手・手首用送受信コイルは GE 3.0T MRI システムに対応しています。

利用者プロフィール

オペレータ - 放射線技師、臨床検査技師、医師（注記、但し、当該国において適用される法規等に従う必要があります）。

利用者の訓練 - このコイルには特別な訓練は要求されません（但し、GE は、MRI システムの正しい使用についてオペレータを指導するために、MRI システムに関する総括的訓練コースを提供しています）。

患者情報

年齢、健康、状態 - 特に制限はありません。

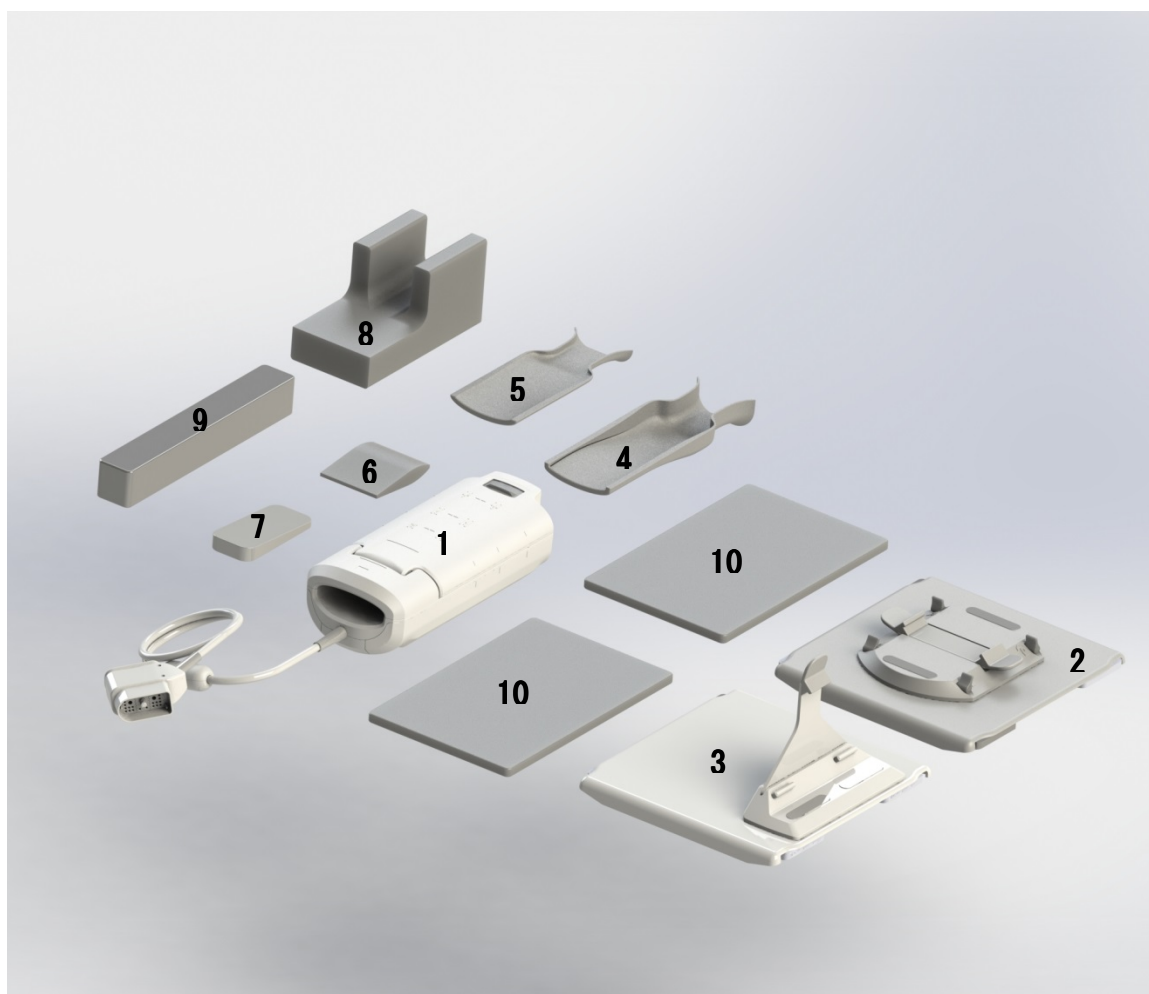
体重 - 250 kg 以下（MRI システムの操作マニュアルを参考にして、システムの最大許容患者体重がこのコイルよりは低い場合は、システムの最大許容患者体重を優先してください）。

目次

はじめに	3
互換性	3
利用者プロフィール	3
患者情報	3
目次	4
第1章 - 16ch 手・手首用送受信コイルのコンポーネント	5
第2章 - 安全性	7
図記号	7
適応	8
禁忌	8
使用上の注意	8
注意 - RF コイル	9
緊急時の手順	10
第3章 - TR ポートの位置	11
TR ポートの位置	11
第4章 - 品質保証	11
スキャナの検証	11
信号対雑音比 (SNR) テスト	11
マルチコイル品質保証 (MCQA) ツール	18
MCQA ビューアを使用する	21
第5章 - コイルのセットアップと使用	22
スキャン位置の決定	22
16Ch 手・手首用送受信コイルの位置決め：水平ベース	25
16ch 手・手首用送受信コイルの位置決め：垂直ベース	27
パッドの構成	30
患者の位置を合わせる：水平ベース	31
患者の位置を合わせる：垂直ベース	33
コイルをロックする	35
ランドマーク	36
第6章 - 清掃、保守、点検、廃棄	39
RF コイルの清掃	39
消毒	39
保守	40
点検	40
廃棄	40

第1章 - 16ch 手・手首用送受信コイルのコンポーネント

16ch 手・手首用送受信コイルは、以下の部品と一緒に出荷されます。受領時に、発送品にすべての部品が含まれていることをご確認ください。



品目番号	説明	数量	GE 部品番号	QED 部品番号
1	16ch 手・手首用送受信コイル	1	5768098-2 (1.5T) / 5 561531-2 (3.0T)	Q7000180 (1.5T) / Q7000152 (3.0T)
2	16ch 手・手首用送受信コイル - 水平ベースプレート	1	5561531-4	2001768
3	16ch 手・手首用送受信コイル - サイドマウントベースプレート	1	5561531-5	2001769
4	16ch 手・手首用送受信コイル - 後方ライナーパッド	1	5561531-6	3004567
5	16ch 手・手首用送受信コイル - 前方ライナー／ファントム配置パッド	1	5561531-7	3004566
6	16ch 手・手首用送受信コイル - 手掌パッド	1	5561531-15	3004964
7	16ch 手・手首用送受信コイル - V字型パッド	1	5561531-8	3004751
8	16ch 手・手首用送受信コイル - 肘／腕パッド	1	5561531-9	3004607
9	16ch 手・手首用送受信コイル - 手首コイルフィラーパッド	1	5561531-10	3004716
10	16ch 手・手首用送受信コイル - サイドマウントベースパッド	2	5561531-11	3004612

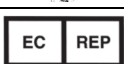
コイルの重量 : 3.9 kg (8.5 ポンド)

第2章 - 安全性

本項では、このコイルを使用する際の一般的注意と安全性情報について説明します。

 MRI システムを使用する際には、MRI システムの操作マニュアルに記載されている禁忌、使用上の注意、その他の安全性情報も参照してください。

図記号

図記号	番号	規格	表題、意味
	0434A	ISO 7000 IEC 60417	注意、好ましくない結果を避けるため、装置操作時に注意が必要および／または記載の状況では操作者に認識させること又は操作者による対策が必要です
	1641	ISO 7000 IEC 60417	操作マニュアル、装置を操作する前に、操作マニュアルの指示をお読みください
	5. 4. 3	ISO 15223-1	操作マニュアル、装置を操作する前に、電子版操作マニュアルの指示をお読みください
	5172	ISO 7000 IEC 60417	クラス II 機器
	5333	ISO 7000 IEC 60417	BF 形装着部
	3082	ISO 7000 IEC 60417	製造業者
	2497	ISO 7000 IEC 60417	製造年月日
	6192	ISO 7000 IEC 60417	RF コイル、送受信
	5. 1. 2	ISO 15223-1	欧州代理人
	2493	ISO 7000 IEC 60417	カタログ番号
	2498	ISO 7000 IEC 60417	シリアル番号
	該当せず	該当せず	ETL 認証（カナダおよび米国）
	0632	ISO 7000 IEC 60417	温度限界

図記号	番号	規格	表題、意味
	2620	ISO 7000 IEC 60417	湿度制限
	2621	ISO 7000 IEC 60417	大気圧制限
	W017	ISO 24409-2 ISO 8528-13	警告、高温表面
	該当せず	EN50419 EU2012/18/EU	この記号は、本製品を家庭廃棄物と一緒に廃棄してはならないことを示します。 本品を確実に正しく処分することは、不適切な本製品の廃棄処理がもたらす環境や人の健康への悪影響を防ぐのに役立ちます。 本品の返却やリサイクルの詳細については、お買い上げ頂いた販売員にお問い合わせください。

適応

1.5T 16ch 手・手首用送受信コイルは GE 1.5T MR システム、および 3.0T 16ch 手・手首用送受信コイルは GE 3.0T MR システムと併用し、熟練の医師が解釈し得る手と手首、あるいはこれらのいずれかの診断画像を作成することを目的としています。

禁忌

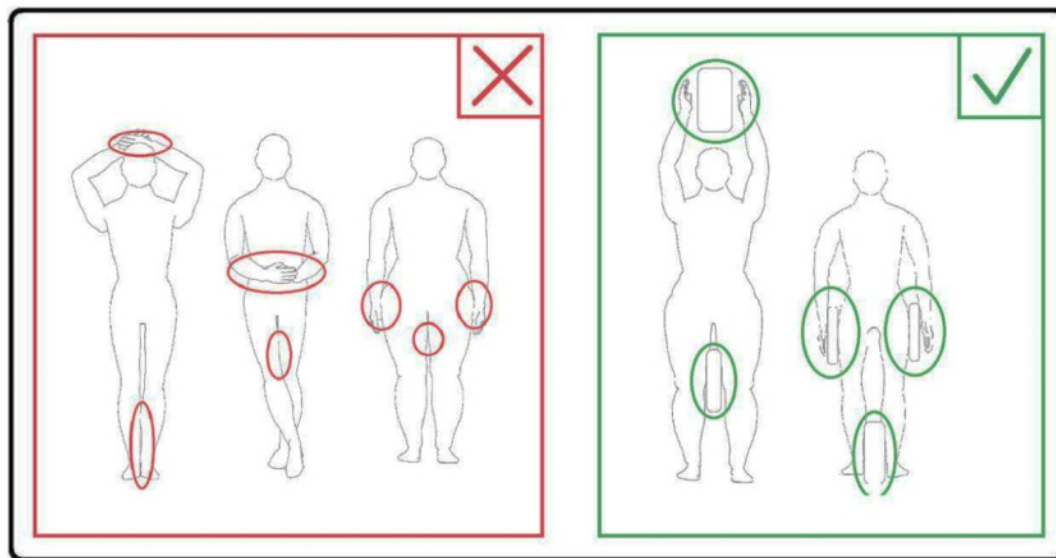
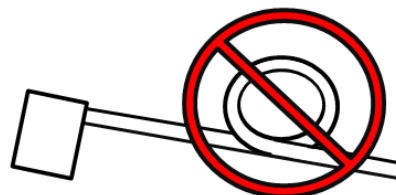
なし。

使用上の注意

-  発作または閉所恐怖症が起こる可能性の高い患者
-  意識消失がある、強い鎮静剤が投与されている、または錯乱状態にある患者
-  確かな会話を交わすことができない患者（例えば、新生児または幼い子供）
-  体の一部に感覚がない患者
-  体温調節が困難または体温上昇に対して特別に敏感な患者（例えば、発熱、心不全、発汗障害のある患者）

注意 - RF コイル

- ⚠ スキャン中、ガントリ内に未接続の機器（RF コイル、ケーブルなど）を放置しないでください。
- ⚠ RF コイル接続ポートには指定されている RF コイルのみを接続します。
- ⚠ 特に外装に破損があるか、または金属部品が露出しているような欠陥のある RF コイルは使用しないでください。
- ⚠ コイルを改変または修正しないでください。
- ⚠ ケーブルを交差させたり、ループ状にしたりしないでください。
- ⚠ コイルのケーブルが患者に直接触れないようにしてください。
- ⚠ 患者の身体部位によってループが形成されるような姿勢は避けさせてください。パッドを使用して、患者の手と脚が決してコイル、MRI システム、患者テーブルや、ループを形成する可能性があるその他の身体部位に触れないようにします。



- ⚠ 患者またはRF コイルが MRI システムのどの部分にも接触しないようにしてください。患者をボアから離すために必要ならば、パッドを使用します。
- ⚠ 患者が、熱感、ぴりぴり感、刺痛感を訴えた場合、直ちにスキャンを停止してください。スキャンを継続する前に、医師に連絡してください。

-  コイルに水や薬剤などの液体が直接触れていないことを確認してください。
-  コイルの欠陥が認められた場合、直ちにコイルの使用を中止し、お客様の GE 担当者に連絡してください。
-  コイルに関する本マニュアルに記載されている付属品のみを使用してください。

緊急時の手順

スキャン中に緊急事態が発生した場合は、直ちにスキャンを停止し、患者を退室させ、必要に応じて医師の診察を受けさせてください。

第3章 - TR ポートの位置

TR ポートの位置

16ch 手・手首用送受信コイルは、送受信コイルです。コイルを正しく使用するために、システムのインターフェースコネクタを必ずシステムのP-ポートに接続してください。送信と受信の両機能に対応するポートの位置については、システム取扱説明書を参照してください（60 cm/70 cmのカーブ/着脱式テーブルの場合はP1、70 cmの固定式テーブルシステムの場合はP2）。

第4章 - 品質保証

スキャナの検証

システムレベルで信号対雑音比（SNR）テストを行います。「サービスマソッド CD、システムレベルの手順、機能点検、信号対雑音比（SNR）テスト」を参照してください。

信号対雑音比（SNR）テスト

必要な道具／備品

説明	GE 部品番号	QED 部品番号	数量
1. 5T 立方体ユニファイドファントム	5342681	該当せず	1
16ch 手・手首用送受信コイル - 水平ベースプレート	5561531-4	2001768	1
16ch 手・手首用送受信コイル - 前方ライナー／ファントム配置パッド	5561531-7	3004566	1

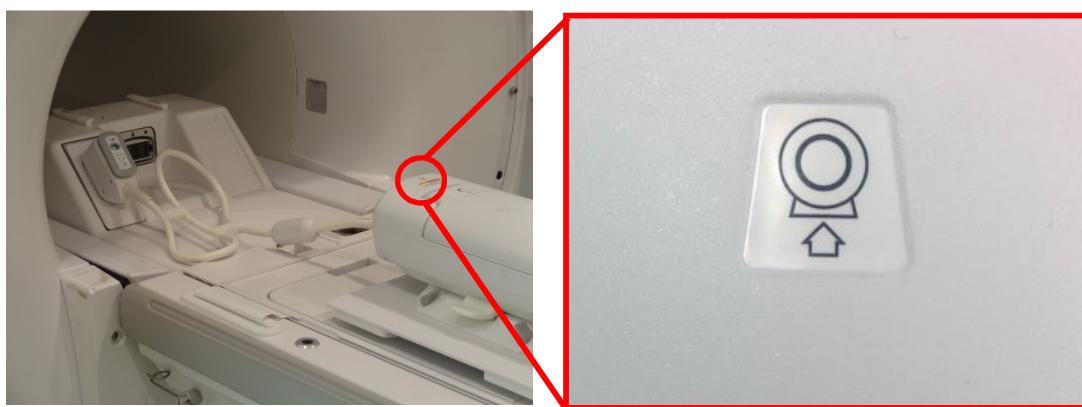
コイルとファントムのセットアップ

1. 使用するコイルのシリアル番号と、ソフトウェアのビルドバージョン（[testrecord] または [getver] から）を記録します。
2. クレードルから他のサーフェイスコイル（ある場合）を取り外します。

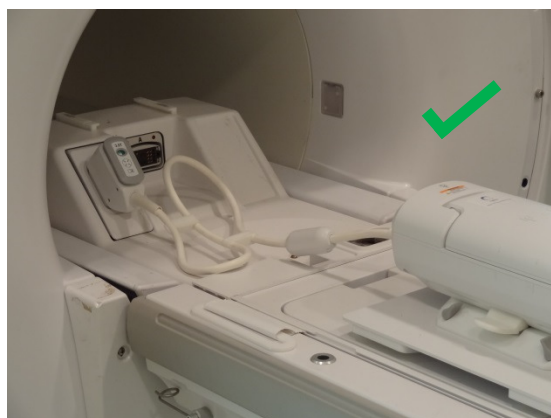
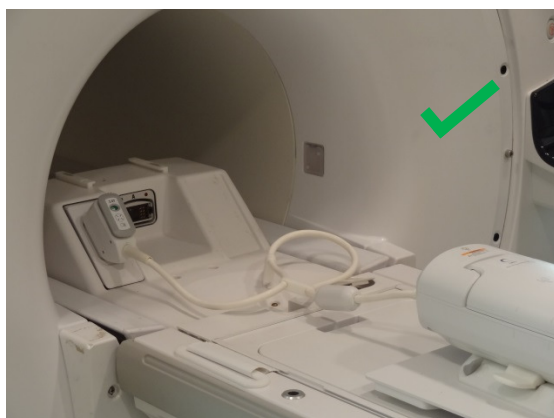
3. コイルを患者クレードルに移します。必ずベースに付属しているハンドルを両手で持ってコイルを運んでください。



4. コイルを患者クレードルに載せます。下記に示すボアの方角矢印が、ボアの方角を指すように配置してください。



5. ループを回避するため、以下に示すように、システムに付属する配線クリップで余計なケーブルのルートを決めます。

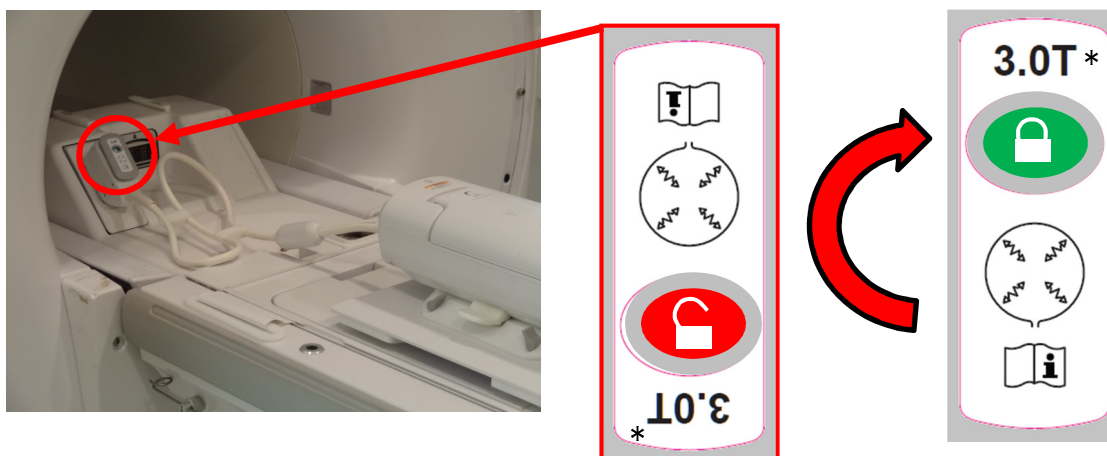


ケーブルを交差させたり、ループ状にしたりしないでください。



コイルのケーブルが患者に直接触れないようにしてください。

6. コイルのコネクタをシステムの適切な送信ポートに接続します（60 cm/70 cmのカーブ/着脱式テーブルの場合はP1、70 cmの固定式テーブルシステムの場合はP2）。P-ポートコネクタの端を回してロック位置にします。右の図を参照してください。

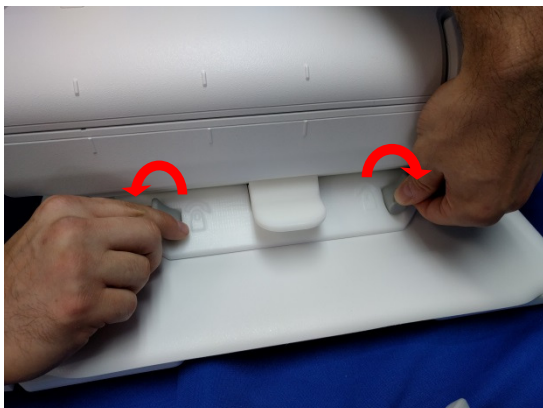


*: 参考情報。1.5Tと3.0Tの両方に適用

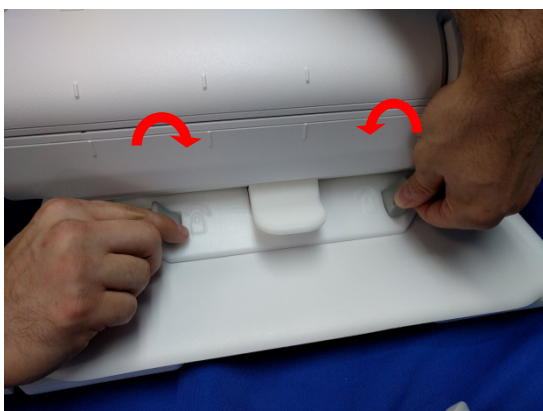
7. 以下に示すように、中央のランドマーク（手・手首モード）でコイルのランドマークを設定します。コイルの調整が必要な場合、以下に示すようにノブをアンロックの位置まで回して目的のアライメントを図ります。コイルが希望する位置に到達したら、もう一度ノブを回してロック位置にし、コイルをその位置で固定します。



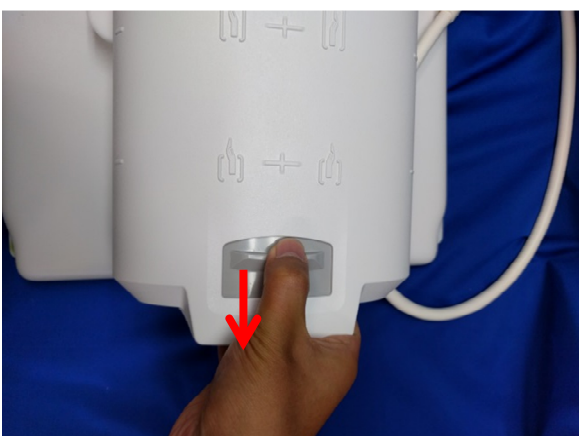
ロック解除



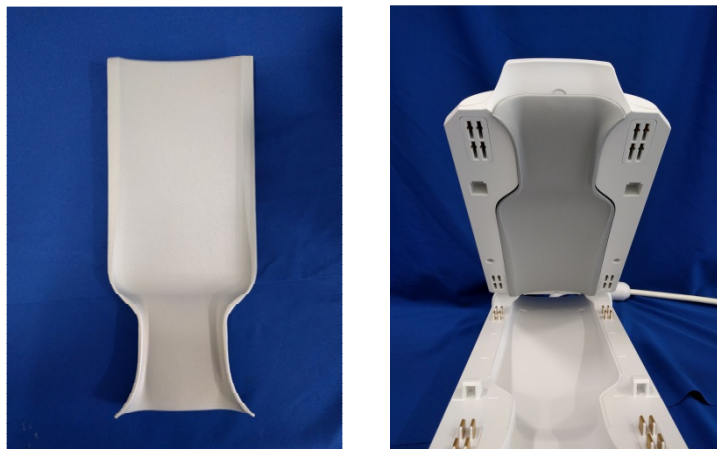
ロック



8. ラッチを前にスライドさせて前方で引き上げてコイルを開きます。



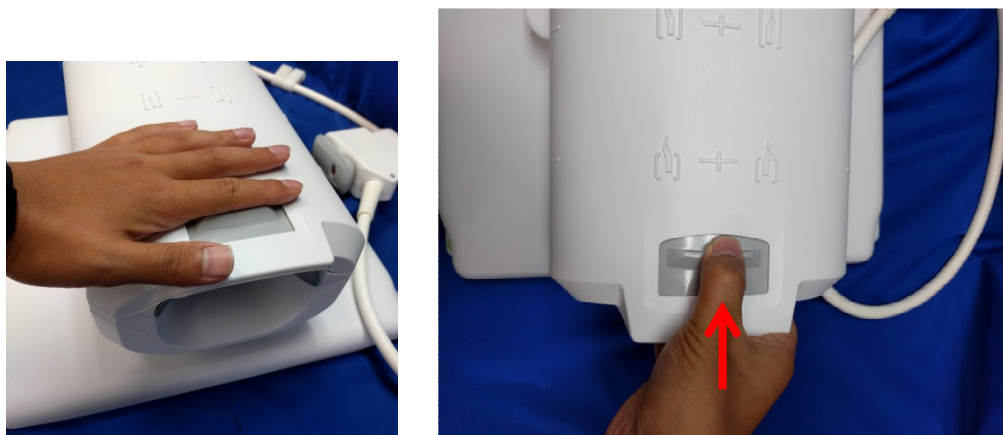
9. コイルの前方に前方ライナーパッド (3004566) を配置します。



10. 以下に示すように、コイル内に立方体ユニファイドファントム (5342681) を置きます。
ファントムの底の縁がコイルの F0V マークに並ぶようにしてください。

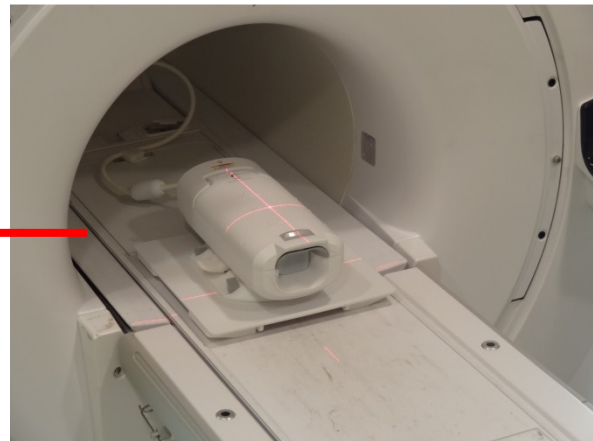


11. カチッという音が生じて前方のラッチリリースが所定の位置におさまることを確認しながらコイルを閉じます。





12. 以下に示すように、真ん中のランドマークの所にコイルのランドマークがあることを再度確認し、コイルをアイソセンタに移動させます。



マルチコイル品質保証（MCQA） ツール

RF コイルに関連する試験は、いずれも十分な校正済みのシステムで実行する必要があります。EPIWP（設置からホワイトピクセルが仕様内）に合格するものとします。

試験 ID	パラメータの説明	予測される結果
1	EPIWP が仕様内	[PASS]（合格）

MCQA を開始する：

- 図 1 に示すように、[Common Service Desktop (CSD)]（共通点検デスクトップ）から、[Service Browser]（サービスブラウザ）に進み、[Image Quality]（画質）[Multi-Coil QA Tool]（マルチコイル品質保証ツール）を選択し、次に [Click here to start this tool]（ここをクリックしてこのツールを開始）を選択します。

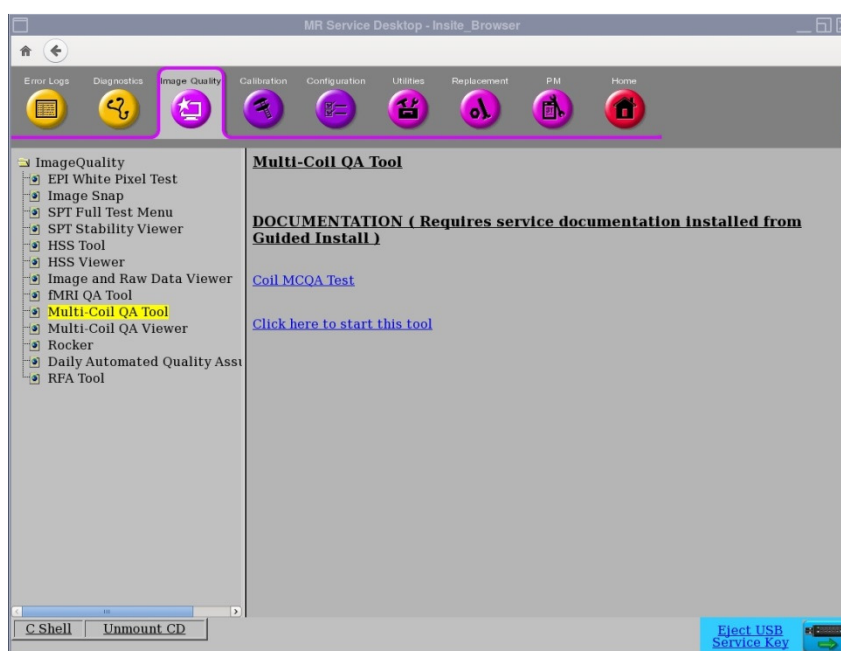


図 1

注記：[No valid MCR-V (or MCR2/3)]（無効な MCR-V（または MCR2/3））警告（図 2）ポップアップが表示されたら、[Yes]（はい）を選択して、試験を続行します。お客様にシステムを引き渡す前に、MCR-V 診断を実行しなければなりません。

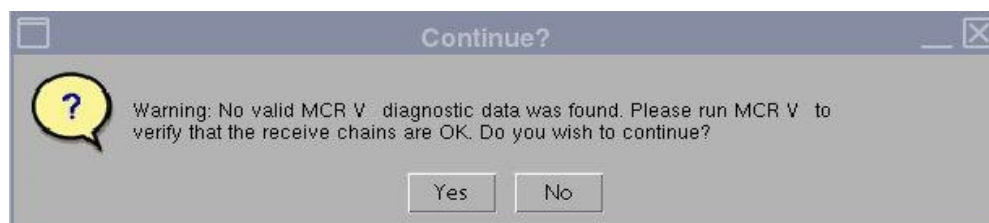


図 2

LPCA に接続したコイルのコイル ID に基づいて、現在のコイルフィールドが自動的に表示されます (図 3)。[Coil Serial #] (コイルシリアル番号) フィールドに試験するコイルのシリアル番号を入力します。

2. 図 3 に示すように、[Start] (開始) をクリックして自動試験を開始します。試験位置の数 (コイルの複雑性) により異なりますが、試験には 3~5 分かかるものと思われる。

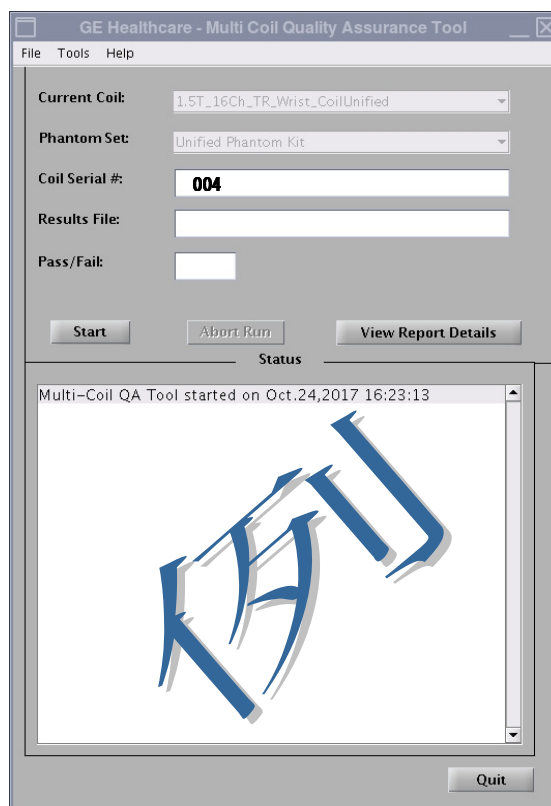


図 3

3. 起動すると、[Phantom placement and coil landmarking are critical for repeatable results] (ファントムの配置とコイルのランドマークは、再現性のある結果を得るのに極めて重要です) というメッセージが表示されます。ランドマークが正しく設定され、ファントムに気泡のないことを確認してから、[Yes] (はい) をクリックして続行します。(図 4)。

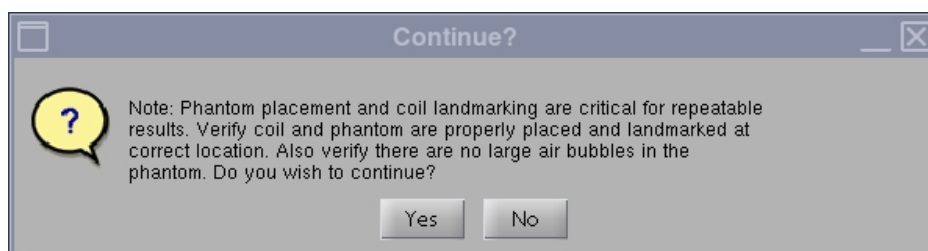


図 4

注記：MCQA ツール GUI のステータスウィンドウは継続的に更新され、常時ツールが行っていることに関する情報を提供します。タイムバー（図 5）が表示され、試験時間のおおよその合計、経過時間および完了パーセントを示します。



図 5

試験が完了すると、画面に結果が表示されます（図 6）。すべてのコイルエレメントが正常に機能していれば、[PASS/FAIL]（合格／不合格）ステータスに [PASS]（合格）と表示されます。MCQA ツール GUI が [Fail]（不合格）と表示するのは、これらに限定されませんが、以下のような理由のいずれかによるものです：

- ・ 不良コイルエレメント
- ・ 誤ったファントムを試験に使用（立方体ユニファイドファントム 5342681 を使用すること）
- ・ 誤ったファントムの位置決め／配置

MCQA 試験の詳細は、サービスメソッド DVD または以下のパス経由のウェブサイトでご覧になれます。[Troubleshooting -> System -> Multi-Coil Quality Assurance Tool]（トラブルシューティング -> システム -> マルチコイル品質保証ツール）。

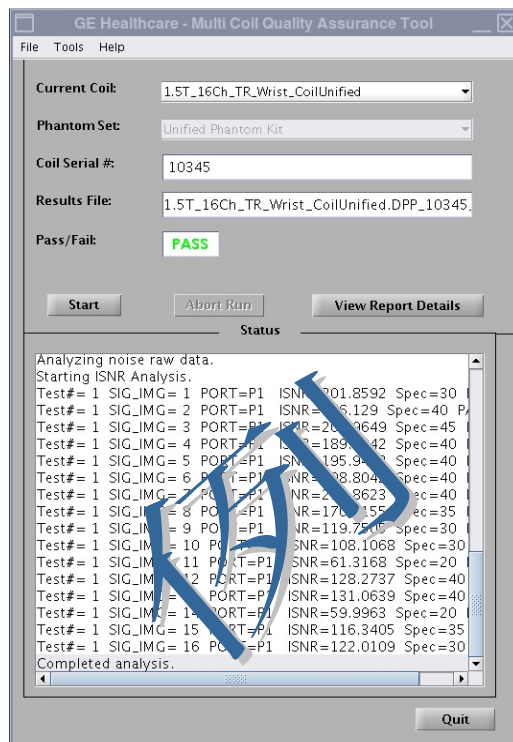


図 6

4. [Quit]（終了）ボタンをクリックしてMCQA ツールを終了します。

MCQA ビューアを使用する

結果を後で表示する場合は、以下の手順に従ってください。

1. MCQA ツールウィンドウで [File、Open Results File] (ファイル、結果ファイルを開く) の順に選択し、希望するコイルの結果ファイルの選択 [View Report Details] (レポートの詳細表示) を選択すると結果を確認できます。

注記： 図7に示すように、結果ビューアウィンドウが開きます。GUI ツール上に表示される結果ファイルの名称および [Pass/Fail] (合格／不合格) の結果も、ビューアの一番上で横方向に一覧表示されます。

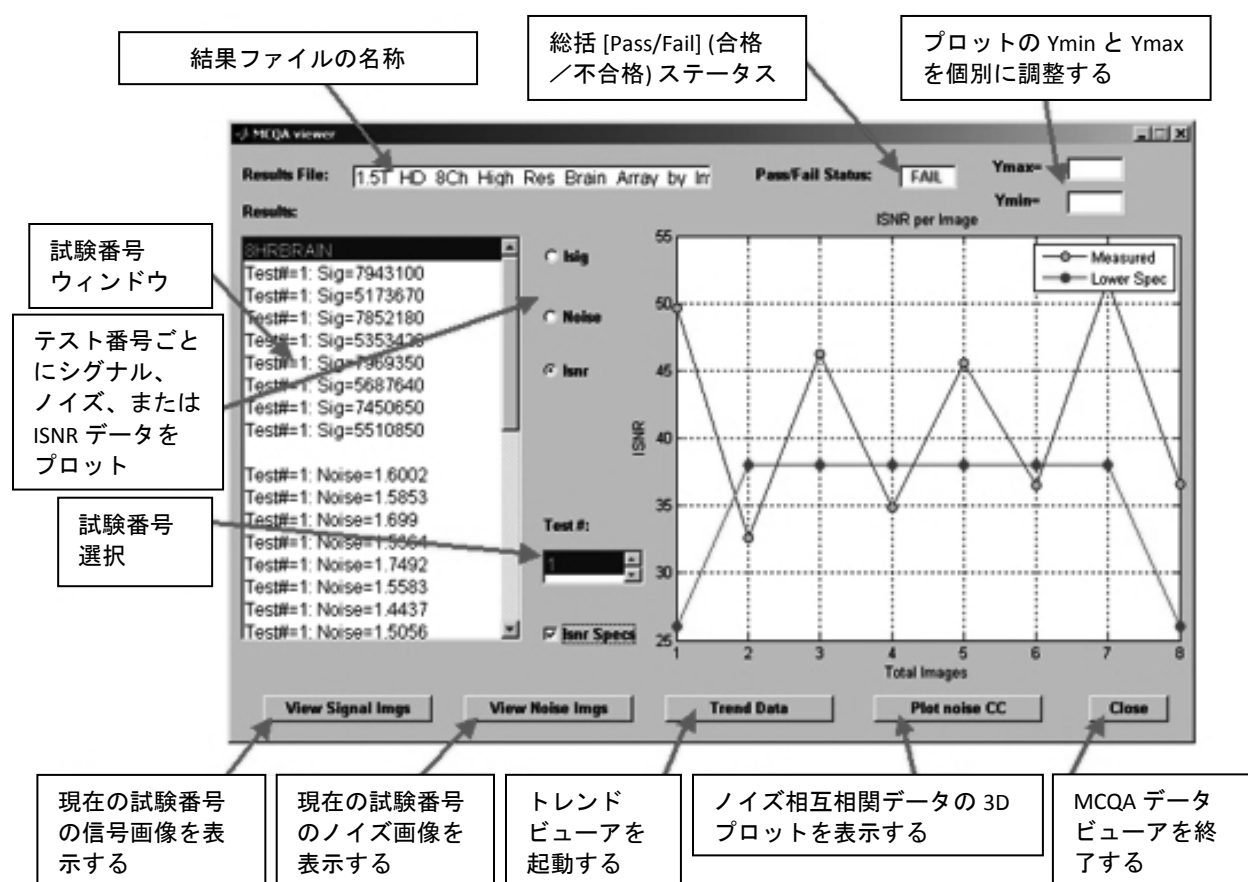


図 7

2. 結果ビューア中央部の [ISNR] オプションを選択してから、[ISNR Specs] (ISNR 仕様) チェックボックスにチェックマークを付けて、結果を表示します。

試験 ID	パラメータの説明	予測される結果
1	EPIWP が仕様内	[PASS] (合格)

第5章 - コイルのセットアップと使用

スキャン位置の決定

16ch 手・手首用送受信コイルには、患者の側方（垂直ベース）または患者頭部の上（水平ベース）のいずれかの方向から患者を撮影するように設計された 2 つのベースが装備されています。患者の体格、快適度、スキャンプリファレンスを基にして最適なスキャン位置を決定します。

水平ベース



垂直ベース



ベースを切り替えるには、以下の各ベースの図に示されているとおり、コイルを持ちながらコイル解除レバーをしっかりと押します。

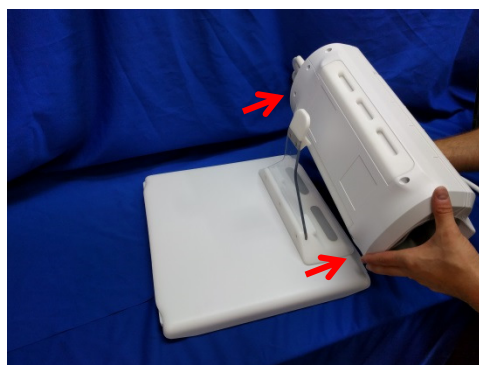


注記： 患者がコイルに配置されている間はベースを切り替えないでください。

水平ベース



垂直ベース

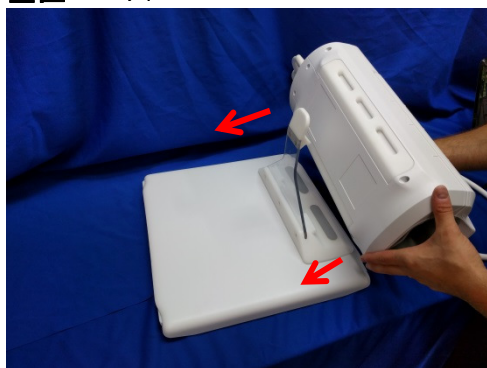


次に、以下に示すようにコイルをベースに揃え、ロックして希望するベース上に設置します。

水平ベース



垂直ベース

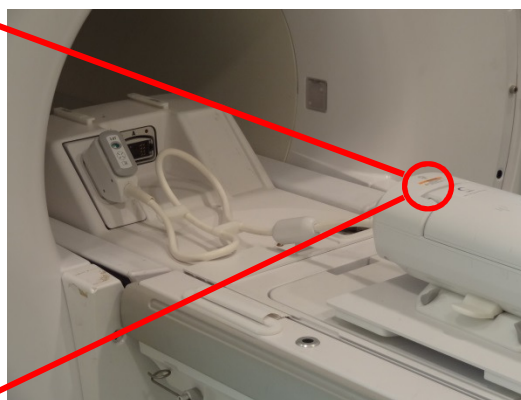


16Ch 手・手首用送受信コイルの位置決め：水平ベース

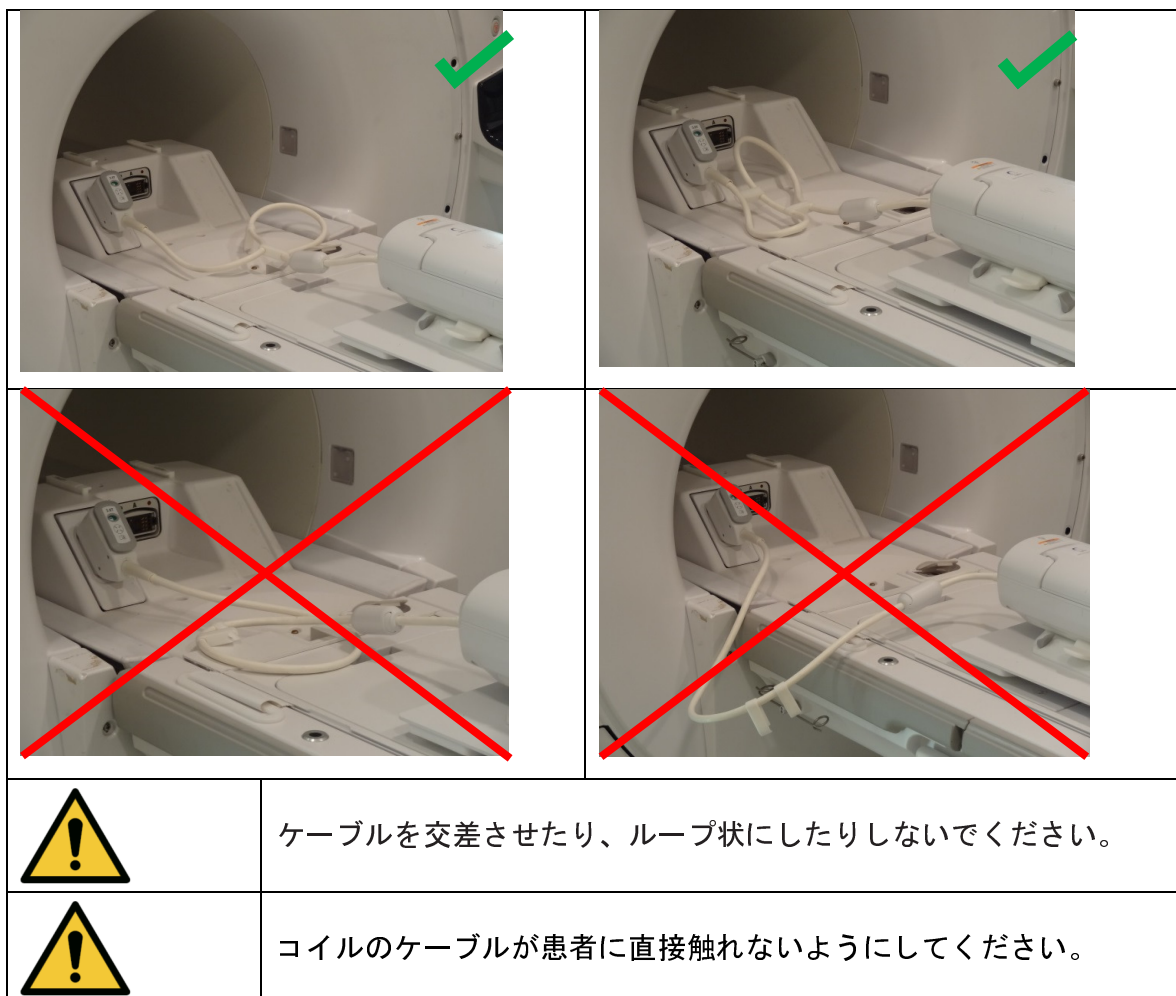
1. 患者クレードルから他のサーフェイスコイル（ある場合）を取り外します。
2. コイルを患者クレードルに移します。必ずベースに付属しているハンドルを両手で持ってコイルを運んでください。



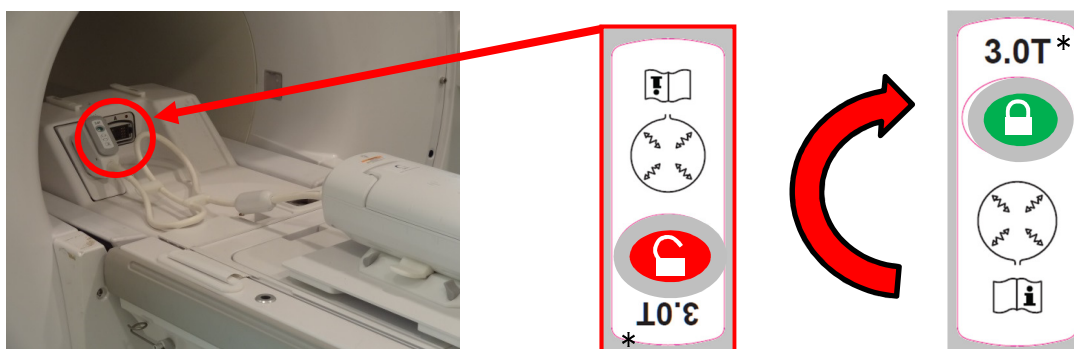
3. コイルを患者クレードルに載せます。下記に示すボアの方角矢印が、ボアの方角を指すように配置してください。



4. ループや患者との接触を回避するため、以下に示すように、システムに付属する配線クリップで余計なケーブルのルートを決めます。



5. コイルのコンネクタをシステムの適切な送信ポートに接続します。(TRポートの位置についてはシステム取扱説明書を参照) P-ポートコンネクタの端を回してロック位置にします。右の図を参照してください。



*: 参考情報。1.5Tと3.0Tの両方に適用

16ch 手・手首用送受信コイルの位置決め：垂直ベース



16ch 手・手首用送受信コイルには、複数のシステムに対応するクロスプラットフォーム互換性があります。最適なコイルや患者配置を与えるために、垂直ベースを適宜に配置する必要があります。

1. 垂直ベースの足部を、使用するシステムで求められる位置に配置します。足部の上のマークは、適切な患者テーブルにするにはどの側を向けるべきかを示しています。設定を変えるには、以下に示すように足部をしっかりつかみ、希望の位置まで回します。



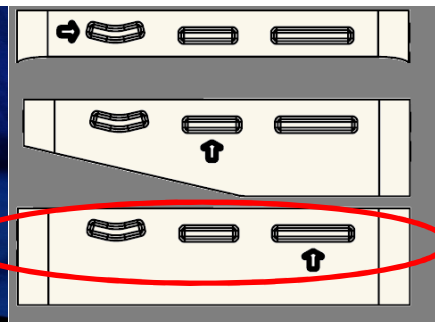
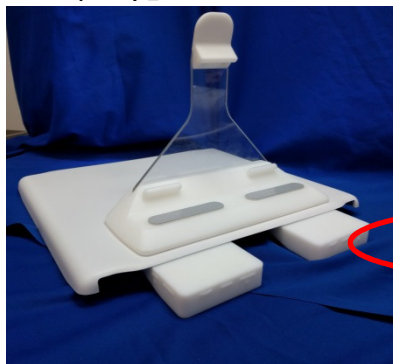
カーブしたテーブル - 60 cm ボア



標準のフラットテーブル - 70 cm ボア、取り外し可能なテーブル付き

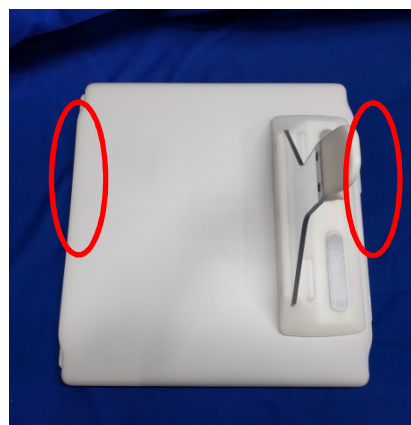


拡張フラットテーブル - 70 cm ボア、固定テーブル付き

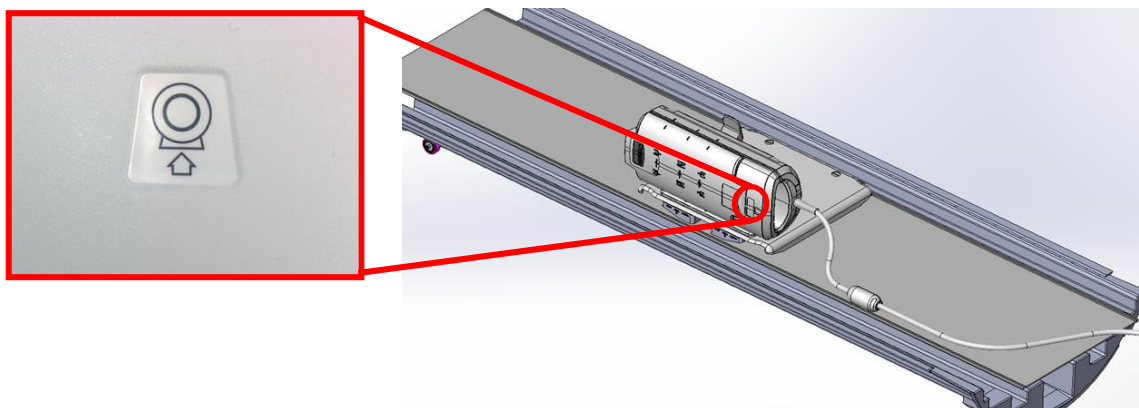


注記： システムベースのセットアップを誤ると、画質が低下するおそれがあります。垂直ベースが当該システムに正しくセットアップされていることを確認してください。

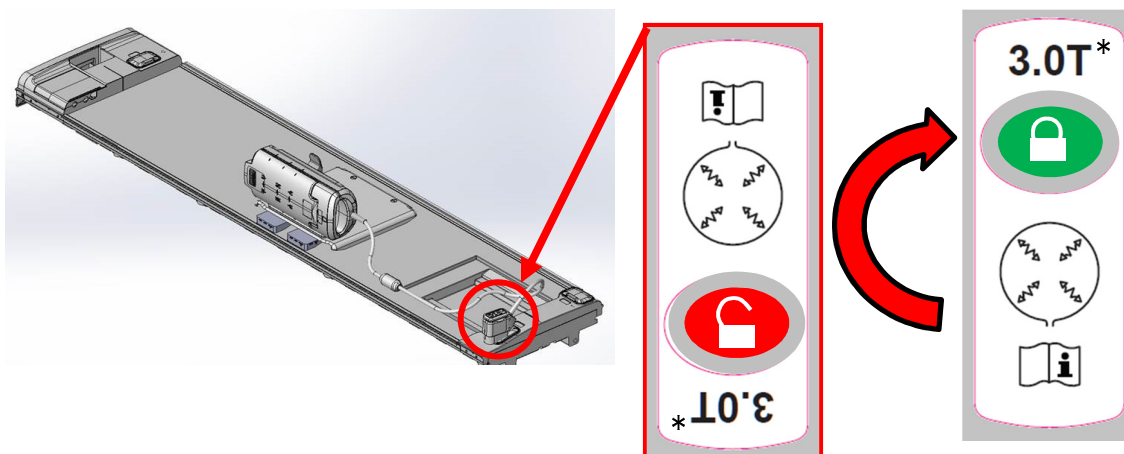
2. 患者クレードルから他のサーフェイスコイル（ある場合）を取り外します。
3. コイルを患者クレードルに移します。必ずベースに付属しているハンドルを両手で持ってコイルを運んでください。



4. コイルを患者クレードルに載せます。下記に示すボアの方角矢印が、ボアの方角を指すように配置してください。

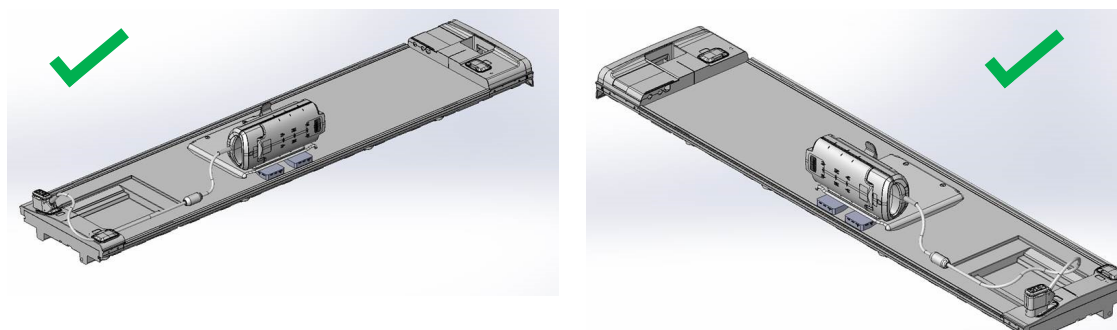


5. コイルのコネクタをシステムの適切な送信ポートに接続します。（「TR ポートの位置に関するシステム取扱説明書」参照）P-ポートコネクタの端を回してロック位置にします。右の図を参照してください。



*: 参考のみ、1.5Tと3.0Tの両方に適用

6. ループや患者との接触を回避するため、以下に示すように、システムに付属する配線クリップで余計なケーブルのルートを決めます。

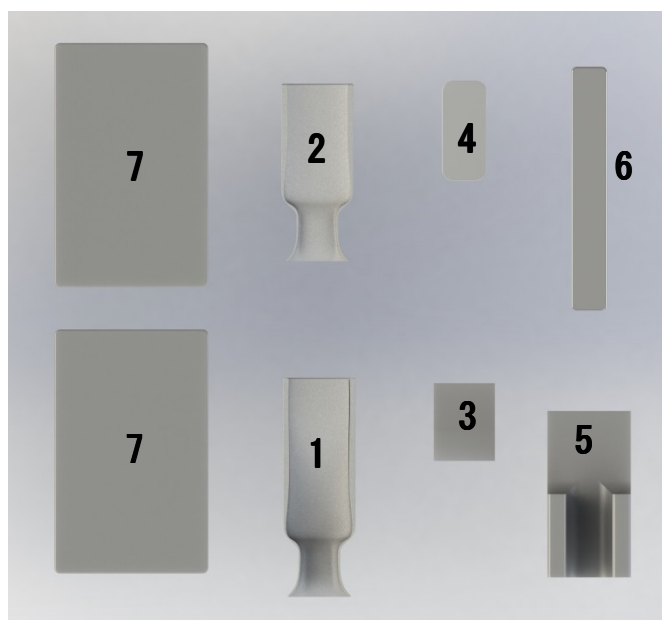




	ケーブルを交差させたり、ループ状にしたりしないでください。
	コイルのケーブルが患者に直接触れないようにしてください。

パッドの構成

1. 16ch 手・手首用送受信コイルには、モーションアーチファクトを軽減し、患者が快適な姿勢を取れるように様々なパッドが付属しています。



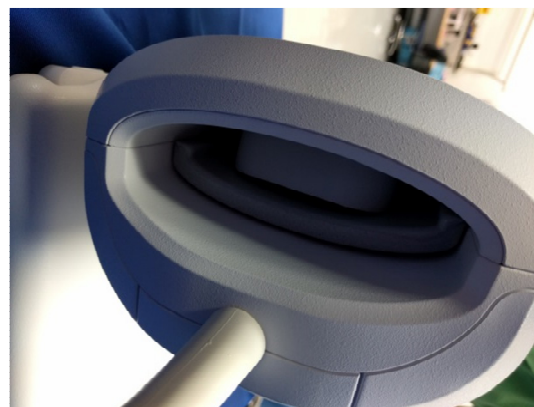
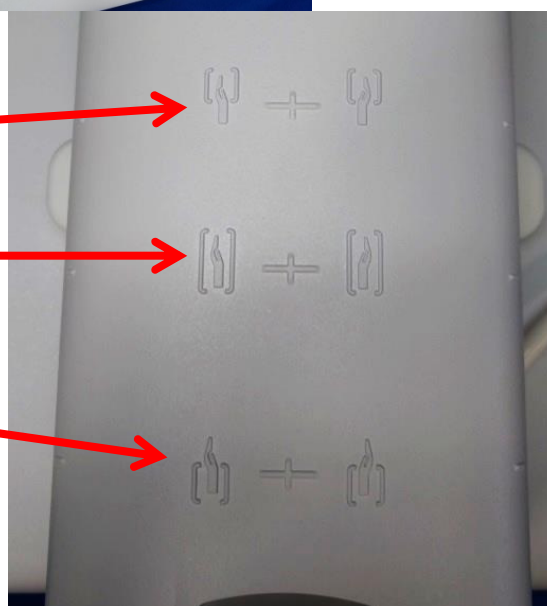
番号	説明	数量	GE 部品番号	QED 部品番号
1	16ch 手・手首用送受信コイル - 後方ライナーパッド	1	5561531-6	3004567
2	16ch 手・手首用送受信コイル - 前方ライナー／ファントム配置パッド	1	5561531-7	3004566
3	16ch 手・手首用送受信コイル - 手掌パッド	1	5561531-15	3004964
4	16ch 手・手首用送受信コイル - V字型パッド	1	5561531-8	3004751
5	16ch 手・手首用送受信コイル - 肘／腕パッド	1	5561531-9	3004607
6	16ch 手・手首用送受信コイル - 手首コイルフィラーパッド	1	5561531-10	3004716
7	16ch 手・手首用送受信コイル - サイドマウントベースパッド	2	5561531-11	3004612

患者の位置を合わせる：水平ベース

1. 16ch 手・手首用送受信コイルは、患者の快適性を促進する様々なパッドと一緒に配送されます。以下に推奨する水平方向のレイアウトの例を示します。

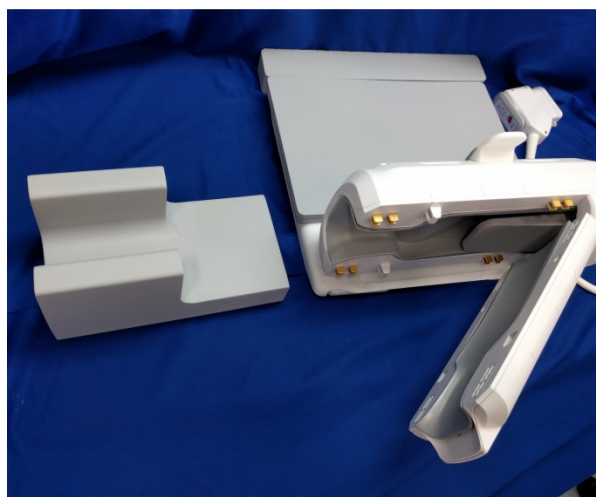


2. 患者の手をコイルの内部に配置します。以下に示すように、コイルのマークを使用して位置決めに支援します。患者の手・手首が固定され、患者が不快感を覚えないように、必要に応じてV字型および／または手掌パッドを使用してください。



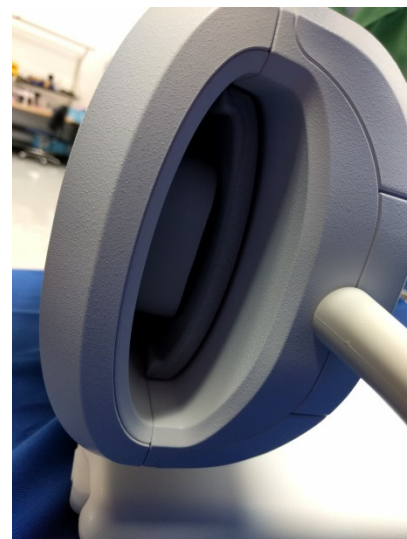
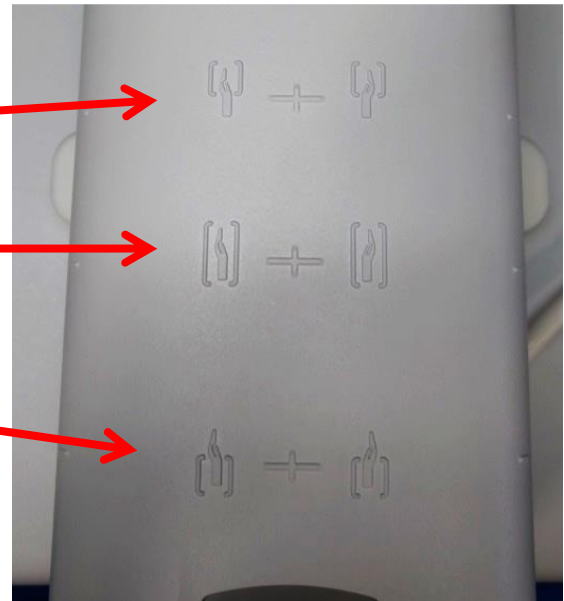
患者の位置を合わせる：垂直ベース

1. 16ch 手・手首用送受信コイルは、患者の快適性を促進する様々なパッドと一緒に配送されます。以下に推奨する垂直方向のレイアウトの例を示します。



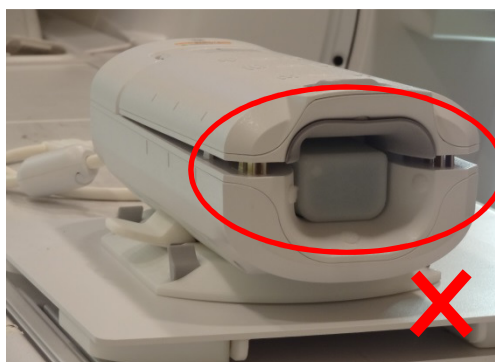
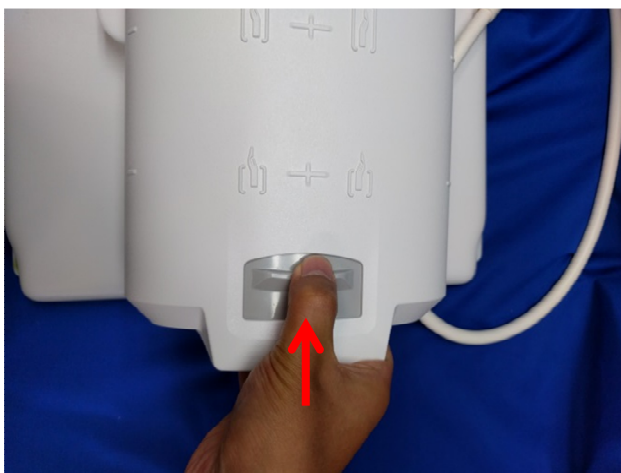
2. 患者の手をコイルの内部に配置します。以下に示すように、コイルのマークを使用してコイル内患者位置決めに支援します。患者の手・手首が固定され、患者が不快感を覚えないように、必要に応じてV字型および／または手掌パッドを使用してください。





コイルをロックする

1. 患者、ガウン、床敷材が 2 分割コイルの間に挟まれていないことを確認しながらコイルを閉じます。物が挟まると、患者損傷を引き起こし、画質を低下させ、コイルを破損させるおそれがあります。カチッという音がして所定の位置におさまるまでコイルの前方の半分を押し下げます。



ランドマーク

- 以下に示すように、16ch 手・手首用送受信コイルには 3 種類のランドマークがあります。これらは次の異なる 3 種のコイル・モードに対応しています：手のみ（8チャンネルモード）、手・手首（16チャンネルモード）、手首のみ（8チャンネルモード）。目的の部位に基づいてランドマークを選択します。



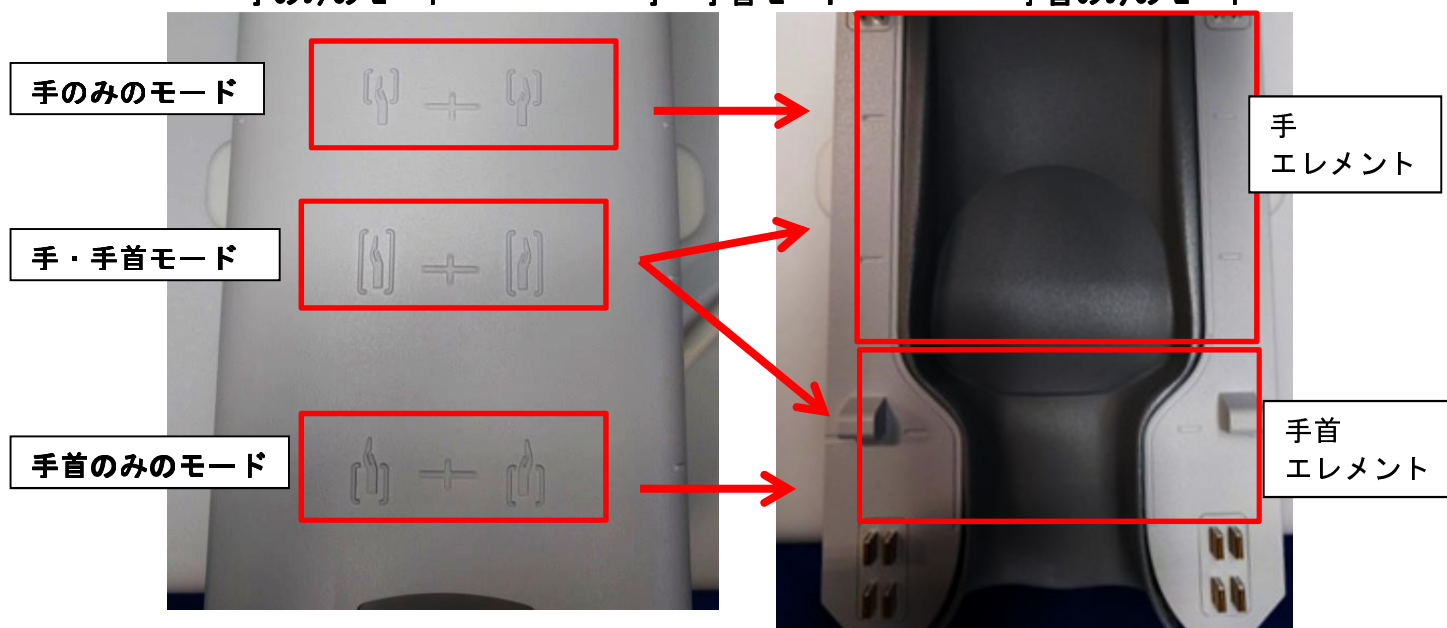
手のみのモード



手・手首モード

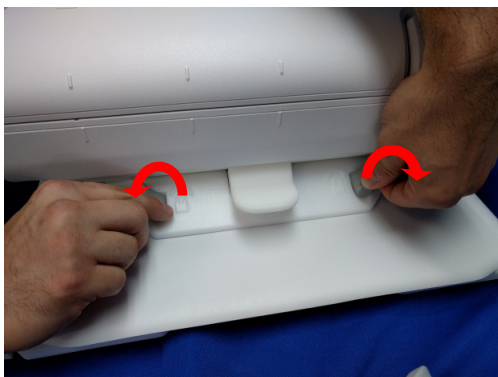


手首のみのモード

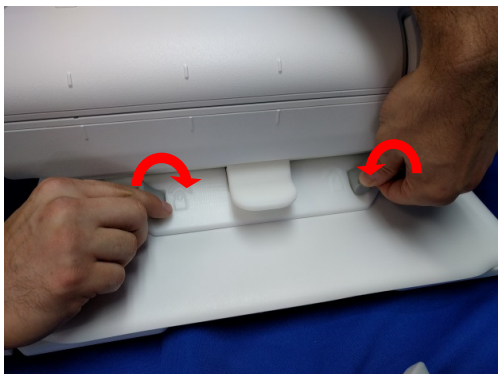


2. 水平ベース構成でコイルの調整が必要な場合、以下に示すようにノブをアンロックの位置まで回して目的のアライメントを図ります。コイルが希望する位置に到達したら、もう一度ノブを回してロック位置にし、コイルをその位置で固定します。

ロック解除



ロック



注記：ランドマークのセットアップ中に調整を行ったら、水平ベースがロックされていることを確認してください。スキャン中コイルの位置が変わると、画質が低下するおそれがあります。

3. 患者をマグネット内に進め、16ch 手・手首用送受信コイルの上のリファレンスマークで目的のイメージングモード用にコイルのランドマークを登録します。



第6章 - 清掃、保守、点検、廃棄

RF コイルの清掃



注意：洗浄液をコイルや付属品に直接かけないでください。



注意：コイルや付属品を滅菌しないでください。



注意：洗浄液を電気接続部に直接かけないでください。

RF コイルと患者コンフォートパッドは、次の手順で毎回使用後に清掃する必要があります：

1. コイルを清掃する前に、RF コイル をMRI スキャナから外します。
2. 乾いた布でコイル表面の汚れを拭き取ります。汚れが取れにくい場合は、下記の手順に従って清掃してください。
3. 漂白剤 10% と水道水 90% の溶液、またはエタノール 70% と水道水 30% の溶液に浸した布で拭き取ります。
4. 点検のためコイルを GE Healthcare に返却する必要がある場合は、前述の 10% 漂白剤の溶液を使用して清拭し、感染のおそれのある物質への曝露のリスクを最小限に抑えます。
5. コイルとパッドの清掃に使用した道具はすべて、連邦、州、地方自治体のすべての規制に従って廃棄してください。

消毒

RF コイルまたは患者コンフォートパッドを消毒する必要がある場合は、前述のとおり清掃し、以下の手順に従ってください。

一次消毒の手順：

1. CaviCide で表面を湿らせます（スプレー塗布器または電気接続部に近いといった特定の表面にはウェットティッシュを使用し、洗浄液を電気接続部に直接かけないでください）。表面全体が濡れているように見え、少なくとも 30 秒間は湿らせた状態を維持できるようにします。
2. ナイロン毛のブラシ、追加クリーナー／消毒用ウェットティッシュの両方またはそれらのいずれかを使用して、固まったまたは落としにくい残屑ないしバイオバーデンを柔らかくします。ブラシを使ったまたは拭き取ったエリアに追加クリーナー／消毒剤（スプレー塗布器または電気接続部に近いといった特定の表面にはウェットティッシュを使用して）を塗布します。ブラシを使ったまたは拭き取ったエリアが

少なくとも 30 秒間は、クリーナー／消毒剤で湿らせた状態を維持できるようにします。

3. 清潔なペーパータオルで表面を拭いて残屑を取り除きます。
4. 使用済みのブラシ、使用済みのクリーナー／消毒剤を湿らせたタオル、使用済みのペーパータオルを廃棄します。
5. 1 から 4 の手順を繰り返します。
6. 表面に残屑が残っている場合は、一次消毒の手順を繰り返します。

消毒手順：

1. 一次洗浄表面に直接 CaviGide（スプレー塗布器または電気接続部に近いといった特定の表面にはウェットティッシュを使用して）を塗布し、表面が湿っていることを確認し、少なくとも 2 分間は湿った状態を維持できるようにします。洗浄液を電気接続部に直接かけないでください。
2. 清潔なペーパータオルで拭いて残留クリーナー／消毒剤を取り除きます。
3. 使用済みのクリーナー／消毒剤を湿らせたタオル、使用済みのペーパータオルを廃棄します。

コイルと付属品は、乾かしてから使用します。

保守

RF コイルの定期的保守は必要ありません。

点検

RF コイルの点検に関する質問については、お客様の GE 担当者にお問い合わせください。

廃棄

RF コイルの返却または廃棄に関する質問については、お客様の GE 担当者にお問い合わせください。

白紙ページ

製造業者：

Quality Electrodynamics, LLC.
6655 Beta Drive, Suite 100
Mayfield Village, OH 44143
米国
www.qualityelectrodynamics.com

代理店：

GE Medical Systems, LLC

トルコ輸入業者の問合せ先：

GE Medical Systems Turkey Ltd.
Sti. Esentepe Mah. Harman Sok. No: 8
34394 Sisli - トルコイスタンブール